札幌新川高等学校　No.92

進路だより

2010年12月20日　進路指導部発行

目　次

社会人基礎力を身に付けて自立せよ！・1
『夢』がある強さ・・・・・・・・2
最後までやりきる・・・・・・・・3
「常に前へ」・・・・・・・・・・・4
進路について考えよう・・・・・・・・4

社会人基礎力を身に付けて自立せよ！

教頭　佐々木 高至

我が国日本は、１９６０～７０（昭和３５～４５年）年代にかけて、高度経済成長を遂げた時代がありました。それは、海外から輸入した資源を、国内の安い労働力で加工・製品化し、欧米諸国へ販売するといった形を作ることが出来たのが、大きな勝因でした。ところが、現在では中国やインドなどがそれと同じ形で、今度は販売先をアメリカはもとより日本もと考え、産業を発展させつつあります。日本の産業は否応なく、それに対峙していく立場に立たされてしまっているのです。日本のＧＤＰ（国内総生産）は、１９６６年にフランスを、１９６７年にイギリスを、そして１９６８年に西ドイツを抜き、世界第２位を維持してきました。しかし、１９９５年以降は伸びが横ばいで確実に後続国との差が縮まってきています。スイスの調査機関ＩＭＤの国際競争力ランキングも１９９０年の１位から２０１０年は２７位まで落ち、個人あたりのＧＤＰも２０００年の３位から２００８年の２３位まで落ちています。（経済産業省調べ）

このような中で皆さんは社会で生き抜く力を身に付けなければなりません。まだまだ、欲しい物は手に入り不自由することなく生活できていることから、前述した事に危機感を持たずに生活している諸君がほとんどであると思います。しかし、確実に厳しい時代が到来しているのです。皆さんの生活を支え育てていくのは我々大人の仕事ですが、それを引き継ぎ次の世代に明るい未来を築き上げなければならないのは間違いなく皆さんなのです。

何のために勉強しているのか、と問うと、大学にはいるため、よりよい就職につくためと答えるのがおおかただと思います。当然それは間違っていませんが「自分の適性を考え将来やりたいことがしっかり出来るための基本的な知識を習得するために、しっかり学習し上級学校への進学を目指す」と考えている人がいたら頼もしい限りです。

本校では、新川高校で学ぶ皆さんが、社会に出て自立し生き生きと生活していく事が出来る能力を身に付けてもらえるよう、フロンティア・エリア制という新しい教育課程を作り、実践して２年目になります。いろいろな講演や集会等で集中して聞き取った内容をメモすることにより聞き取る力書き取る力を養成し、大学の協力を得て実施する実験や実習などを通し、チームで研究しレポートにまとめプレゼンテーションを行うなど様々な取り組みの中で学習する目的や、意義を感じ取り真剣に上級校を目指して学習に取り組んで欲しいと願っています。

この時期になると、放課後、外は既に暗く、寒くなった２階の教室に残って必死になって勉強をしている３年生の姿が見受けられます。廊下で様子を見る度に「頑張れよ！！」と心で念じています。

３年生にとって、最後の定期考査が終わった今、就職や大学の推薦で進路先が決定している生徒を除き、多くの皆さんは、大きな不安を抱え、大学進学への最後のスパートをかけていることだと思います。

この便りが配られる頃は「あーあ、あとセンターまで１ヶ月を切ってしまった。」「個別学力試験が間に合わない。」等と焦りばかりを感じ、今学習していることに自信を持てずに困っている方もいるかも知れません。そんな時、私は「まだまだ、１ヶ月以上も時間が残されている。その期間に出来ることが沢山ある。焦って何も手につかなくなるのが最悪で、覚悟を決めて集中して最後のまとめをするのがベストである。」とアドバイスしています。この時期は、新しいことを学び覚える時期ではない、学んだことの徹底確認をすべきだと考えます。一度解いた過去問を繰り返し解く時期です。忘れかけていたこと、忘れてしまったことを再確認することがとても大切です。以外と沢山時間が残っていますよ。最後の最後まであきらめず粘りきった者の頭上に栄冠が輝く！！

計画的に順調に進んでいる諸君は、健康管理に最大注意！！インフルエンザの予防注射も忘れずに。試験は、個々の理由には待ったなしです。どんなに実力があっても体調不良が原因で失敗してしまう例は沢山あります。力を出し切って下さい。健闘を祈っています。

大川校長先生が、赴任早々皆さんに語った「ゲロ吐くまで頑張れ！！」といった言葉が今でも印象に残っています。辛いこと、苦しいことに立ち向かって克服した経験は、皆さんのこれから生活していく自信に繋がります。今でしか経験できないことから逃避しないで立ち向かって下さい。それらの経験が、将来皆さんの自立していくうえでの礎になると思います。経験の数だけ引き出しが増えると思います。沢山の引き出しを持った人は周囲からも信頼され慕われる存在になります。これは最終的に危機に陥ったとき周りから支えられることにも繋がると思います。この学舎を共にする新川生が、信頼されるリーダーとなりうる資質を持って巣立っていくことをいつも夢見て先生方も頑張っています。ＡＴＴ(社会人基礎力)「自ら考抜き、行動し、様々な考えを持つ仲間とチームを組み物事にあたれる力」を身に付け自立した人間になって下さい。

「夢」がある強さ

進路指導部長　寺崎敏之

１．３年生は本気で『夢』を追っています

今年の３年生30期生には、良い意味で驚かされます。講習の受講者数と模擬試験の受験者数は過去最高だった前年度の３年生を、さらに大きく上回りました。何よりも素晴らしいのは、授業に対する真剣さです。予習の質が高いせいか、なされる質問も良く考え抜かれたものが多くて感心させられます。１年生レベルの基礎的な質問も出ますが、それを恥ずかしがらずに、「わかろう」とする姿勢に好感が持てます。休み時間も放課後も生徒が質問や添削に動き回り、先生方も大忙しです。

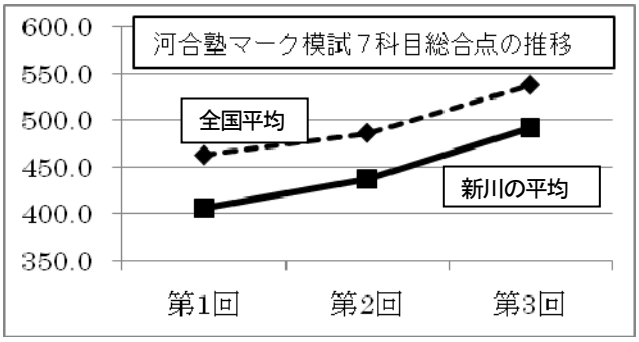
授業・模試・講習が充実した結果、１１月には

① 国立理系・国立文系・私立文系の総合偏差値と、

② 大学入試センター試験型のマーク模試の７科目受験者の層の厚さ

が、過去最高の成績になっています。

マーク模試の総合点（900 点満点）はまだ全国を下回っていますが、５月の第１回から１１月の第３回までの模試の得点の伸びは全国の伸びを上回って全国との差を縮めてきているので、１月の本番が楽しみです。



放課後も休みの日も、みんなで頑張ってここまで学力を上げてきたことは称賛に値します。

たとえ今伸び悩んでいても、今まで大変な学習を積み重ねてきているので、これから必ず伸びるはずです。自分がしてきた努力に自信を持って、前に進んでください。応援しています。

２．コンスタントな努力が求められる時代

新川からは毎年約250名が出願する大学入試センター試験、理科・地歴公民は３年の範囲も含みますが、英数国は100%が本校の１・２年で学習する内容から出題されます。

作問者集団は教科書を全部調べて、「普段授業でやっている内容を出そう」「普段しっかり学習した人が得点できる問題にしよう」という方針のもと、試験を作成しています。特殊な「受験勉強」よりは、日々の努力がそのまま問われる時代に変化しています。

３．「引退後から」では間に合わない

基礎を固めてあれば、3 年生からは演習を積んで学力を順調に伸ばすことができます。一方、受験を意識していなかった人は、3 年で基礎のやり直しが必要になるので、演習で学力を伸ばすどころではありません。3 年生では理科や地歴公民の受験科目の仕上げもしなければならないのに、時間が足りなくて何もかも間に合わなくなります。高校入試とは違って、大学入試ではこなす量が圧倒的に多いので、受験前の小手先の勉強では太刀打ちできません。

部活動に「引退」という言葉がありますが、1・2 年生でのコンスタントな努力なしに3 年で引退してから努力したのでは全く手遅れという状況であることをよく理解しておいてください。3 年生春の大会時期でも文武両道を貫くことが求められます。

４．進路を絞る冬休み

初めに述べたとおり、３年生は相当な努力を続けていますが、『将来への夢』と、そのために『第１志望に合格しよう』という強い意志がその原動力になっています。

自分の将来が描けて、その中での高校３年生の位置づけがしっかりしていると、頑張ることができます。

「進路を決めるのが早ければ早いほど、その実現可能性が高い」ことがベネッセのデータで示されています。そこで、1 年間の経験を生かして冬に、新川高校の１年生は「志望分野宣言」を、２年生は「第１志望宣言」を提出します。

その際に、

① 自分は将来何をしたいのか、
② それはどう社会の役に立つのか、
③ そのために今何をしなければならないのか、

という３点を真剣に考え抜いてください。

仕事をして経済的裏付けがなければ夢は追えませんし、人の生き方は社会・人との関係の中で規定されてきます。『将来の夢』と『仕事』との兼ね合いの中で高校卒業後の自分の人生をしっかり考えてみてください。

②『就職するので、調査書を送ってください』

内定先の民間企業から、高校の調査書の提出を求められたそうです。

上記「1 の①」の「大学からの就職で高校の調査書を求められる」背景を考えてみましょう。今は AO・推薦入試でさまざまな学力の学生がいます。「企業は出身大学だけでは学生を判断しきれないので、学生の入試の種別のみならず出身高校も見て就職内定を出すことがある」という話は昨年から出ていました。学生を高校から大学までトータルで判断する企業が増えてきているのかもしれません。

この冬、1･2･3 年生に望むこと

進路指導部長　寺崎敏之

１．今年の新しい動き

現在大学４年の本校卒業生から最近、こんな電話がかかってきます。

①『就職するので、調査書を送ってください』

内定先の民間企業から、高校の調査書の提出を求められたそうです。

②『進路変更するので、調査書を送ってください』

大学・専門学校など上級学校を終えてから、全く違う方向の学校に進んで勉強しなおすという卒業生が見受けられます。

なぜこのような事態になっているのでしょうか?

２．コンスタントな努力が求められる時代

新川からは約250名が受験する大学入試センター試験、理科・地歴公民は 3 年の範囲も含みますが、英数国は100%が本校の１・２年で学習する内容から出題されます。

作問者集団は教科書を全部調べて、「普段授業でやっている内容を出そう」「普段しっかり学習した人が得点できる問題にしよう」という方針のもと、試験を作成しています。昔の「受験勉強」という特殊な勉強が必要な時代ではなく、日々の努力がそのまま問われる時代に変化しているということです。

上記「1 の①」の「大学からの就職で高校の調査書を求められる」背景を考えてみましょう。今は AO・推薦入試でさまざまな学力の学生がいます。「企業は出身大学だけでは学生を判断しきれないので、学生の入試の種別のみならず出身高校も見て就職内定を出すことがある」という話は昨年から出ていました。学生を高校から大学までトータルで判断する企業が増えてきているのかもしれません。

３．「引退後から」で大丈夫？

基礎を固めてあれば３年生からは演習を積んで学力を順調に伸ばすことができます。一方、受験を意識していなかった人は、3 年で基礎のやり直しが必要になるので、演習で学力を伸ばすどころではありません。3 年生では理科や地歴公民の受験科目の仕上げもしなければならないのに、時間が足りなくて何もかも間に合わなくなります。高校入試とは違って、大学入試ではこなす量が圧倒的に多くなります。

部活動に「引退」という言葉がありますが、1・2 年生でのコンスタントな努力なしに3 年で引退してから努力したのでは全く手遅れという状況であることをよく理解しておいてください。

４．３年生は本気で『夢』を追ってます

30 期生は講習受講者数、模擬試験受験者数ともに前年度の３年生を上回っています。前年度を上回っていています。）

何よりも、3 年生になってからは授業の真剣さが増しました。予習が十分深くなされているため良い質問も多く出てます。休み時間も放課後も生徒が質問に来て、先生方も大忙しです。

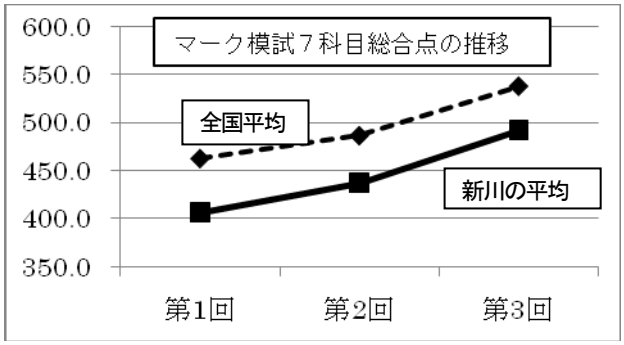
授業・模試・講習が充実した結果１１月には、

① 国立理系・国立文系・私立文系の総合偏差値と、

② 大学入試センター試験型のマーク模試の７科目受験者の層の厚さ

が、過去最高の成績になっています。

マーク模試の総合点はまだ全国を下回っていますが、５月の第１回から１１月の第３回までの模試の得点の伸びは全国の伸びを上回っており、全国との差を縮めて大変素晴らしい結果になっています。



放課後も休みの日も、みんなで頑張ってここまで学力を上げてきたことは称賛に値します。

たとえ今伸び悩んでいても、今までこれだけ学習を積み重ねてきているので、これから必ず伸びるはずです。自分がしてきた努力に自信を持って、前に進んでください。応援しています。

５．進路を絞る冬休み

上記のとおり、3年生は相当な努力を続けていますが、『将来への夢』と、そのために『第１志望に合格しよう』という強い意志がその原動力になっています。自分の将来が描けて、その中での高校３年生の位置づけがしっかりしていると、頑張ることができます。

一方、先に述べた「１の②」の卒業生の進路変更の場合、自分の将来を高校の時に描き切れていなかったのかもしれません。「思ったような就職先が決まらない」など様々な理由があるかもしれませんが、それにしてもそれまでの数年間がなんとももったいなく思われてなりません。

事情があって進路変更することは起こりえますが、「進路を決めるのが早ければ早いほど、その実現可能性が高い」ことがデータで示されています。そこで、1 年間の経験を生かして冬に、新川高校の１年生は「志望分野宣言」を、２年生は「第１志望宣言」を提出します。『将来の夢』と『仕事』との兼ね合いの中で高校卒業後の自分の人生を考えることになります。その際に、

④　自分は将来何をしたいのか、
⑤　それはどう社会の役に立つのか、
⑥　そのために今何をしなければならないのか、

という３点を真剣に考え抜いてください。

最後までやりきる

第３学年

既に進路が決定している人はおめでとうございます。登校日は残り僅かですが、卒業式を迎える最後まで「自分は新川高校の３年生である」という自覚を持って、有意義な時間の過ごし方をして下さい。

さて、多くの人たちは、いよいよ受験本番です。最後まで気を抜かずに頑張りましょう。以下に受験の際の注意事項を何点か挙げます。

【受験先の要領などを確認する】

皆さんの志望の進路は多岐に渡り、複数回受験機会が設けられているところも多々あります。全員に全部のことを説明することは不可能です。さらに、何らかのトラブルが生じてしまった場合は、「要項になんと書いてあるか」が基本です。最終的には「自己責任」になりますので、自分でしっかり要項などを確認し、疑問点は問い合わせましょう。

【生活リズムを整える】

入試はほとんどが午前中からスタートします。生活リズムが夜型の人は朝型へと切り替えましょう。食事や入浴のタイミングを意識し、朝のうちに体を動かす、陽の光を浴びるなどして、今から受験に備えるべきです。生活リズムの変更はすぐにはできません。また、年末年始にリズムを崩す人が多いので要注意です。

【持ち物を用意する】

要領に載っている、受験票等の「持って行かなければいけない物」は当然です。それ以外に、要領には載っていないけれど「持って行った方が良い物」もあります。いくつか挙げておきます。

《現金》何かあったときに一番応用が利く。小銭も多めに。《甘いもの》脳のエネルギー兼リラックス効果。《携帯電話》緊急時の連絡用にフル充電。泊りがけの人は充電器も。ただし、受験会場では忘れずにアラームと電源を切ること。《時計》時計を置かない受験会場もある。《弁当・飲み物》食堂・売店・自販機が、無い・遠い・混む・売り切れる可能性がある。《薬》緊張でお腹が痛くなることも。その他、泊りがけで行く場合は保険証も念のため。

《参考書》は目を通すことで次の科目に意識が切り替わる。信頼できる１冊を持って行こう。なお、センター試験は空き時間がとても長いので、その時間に何をするか計画すべき。《筆記用具》シャープペンシルと消しゴムも絶対に予備が必要。センター試験では、塗り潰し用にあらかじめ先を丸めた鉛筆と細かい字用鉛筆をそれぞれ用意すると時間短縮になる。また、鞄のポケットにペンとメモ用紙。それ以外に《会場周辺の地図》《雨具》《ひざ掛け》《マスク》《ティッシュ》、コンタクトレンズ使用者は《眼鏡》《目薬》。

補足：「荷物が増えたから別の鞄にしよう」と言って、一番大事な受験票を移し忘れる受験生が全国で毎年いる。鞄のポケット等の中身も全て確実に移すこと。

【当日の流れをイメージする】

試験会場までの移動手段・経路等をイメージしましょう。家族に送ってもらう予定でも、念のため公共交通機関での行き方をチェック。到着してからの時間の使い方も考えましょう。

【前日】

疲れを残さない程度に最後の確認をして、当日に備えます。緊張して眠れないことがあっても、布団に入って目をつぶっていれば体は充分休まります。天気予報のチェックは必須です。

【当日の朝】

朝食は必ずとりましょう。消化吸収を重視。

服装は、試験会場の温度に応じて着脱しやすい格好がベストです。なお、センター試験には英文字や地図等がプリントされた服を着て行けません。

【試験会場で】

何か困ったことがあったら、すぐに試験官に申し出ましょう。遠慮は要りません。

空き時間に答え合わせをしないように。終わった科目より次の科目に意識を切り替えましょう。

【終了後】

合格通知が来るまで（もしくは、入学手続きが完了するまで）、受験は終わりではありません。事前に「次に何をすべきか」を考えましょう。

特に、国公立受験者はセンター試験後や私大受験後、２次試験に向けて気持ちの切り替えが遅れる人が例年いるようです。最後まで気を抜かずに。「冬来たりなば春遠からじ」。30 期生の健闘を心から期待しています。

「常に前へ」

第２学年

2010 年が終わろうとしています。3 年の授業は 12 月で終わりますので、高校生活はあと一年です。そして、これからの一年は、君たちの人生を左右することになる、重要な一年間になります。そのためにも、つぎの三つのことを実行してください。

１「第一志望宣言」を大切にする

年明けに、第一志望宣言をします。進路の最終決定ではありませんが、目標が決まれば、実現するための取り組みを具体的に考えることが出来ます。入試科目、必要な学力、これからやるべきことが見えてきます。また、「将来の目標がはっきりしない」という人もいるかと思いますが、そういう人こそ、目標が見つかったときのために、今できること＝学力の向上を図るべきです。そのためにも、現時点では進路目標を高めに設定し、日々の授業を大切にすることが一番です。また今後、思うように学力が伸びず、進路について不安になるときもあるかと思いますが、第一志望を簡単に下方修正してはいけません。目標を高く、「常に前へ」の気持ちを貫くことです。

２「進路決定までの流れを」イメージする

第一志望が具体的になったら、計画を立てましょう。考査・模試・講習を目安とし、進路決定（＝合格）までの流れをイメージしましょう。その場しのぎの勉強ではなく、最終ゴールに向けて、どの時期に何をやるのか、この講習では不得意科目に重点を置くとか、次の模試では得意科目で結果を出すとか、講習や模試を受けるだけではなく、中間目標を立て考えましょう。

３「生活のリズム」を確立しステップアップする

夢を持っているだけでは夢は実現しません。実現のためには計画を立て実行すること。そのためにはまず、学習するための、生活リズムを確立してください。日常生活を振り返り、時間の事業仕分けをして、勉強時間を増やすことです。平日の学習時間を、１時間から２時間へ、２時間から３時間へと増やしてください。また、この冬休みには、１日 12 時間学習に１回は挑戦して下さい。今やっておけば、受験勉強が本格的になったときに、やれる自信がつきます。挑戦しなければ自信もつきません。

最後に

自分の進路は自分で考えるしかないのです。君たちは普通高校に入学してきましたが、出口には普通大学・普通専門学校・普通就職はないのです。どうしたいのかを自分で考え、調べ、行動してください。そして、これからの一年を「受験のための我慢の一年」と考えず「自己実現のための一年」と考えてください。受験勉強を合格のためだけでなく、強い意思と自立の心を育て、人間としてステップアップするチャンスにしてください。

進路について考えよう

第１学年

12 月 8 日（水）は生徒に向けて、12 月 9 日（木）は保護者に向けて、ベネッセコーポレーションの田阪さんによる講演会がありました。どちらでも強調していたことは、**大学入試センター試験の問題が、教科書・授業内容から 100%出題される**ということです。個別試験など全てを総合しても、教科書の範囲から 80%出題されます。先輩達も「**授業を大切に**」ということを合格体験記などで言っています。毎日の授業を居眠りなどせずに集中して受けることが合格への近道なのです。

では、授業を聞くだけで合格が勝ち取れるかと言うと、そうではありません。やはり「**授業」の予習、復習**があってこそです。この時期から２年生の次の模試にかけてが北海道の生徒は特に成績が落ちます。中だるみの時期になってしまうのです。こうなると、せっかく今までがんばってきたものが水の泡です。あるアンケート結果では、「**大学入試を本格的に考えて取り組み始めたのは**いつから？」の問いに**高１の冬からと答えた生徒の大学合格率は 90%以上**という高い値を示しています。**平日は３時間、休日は 5～6 時間**、毎日の学習の習慣をつけ、コツコツと積み上げていくことが大事です。

また、進路についてしっかり考えることも必要です。高校進学は流れに任せても進路は決まります。ほとんどの人が近くの高校に進学するからです。しかし、大学進学はそうはいきません。**自分自身で決めないと進路は決まりません。**仕事によっては資格がないと就けないものもあるし、特定の学部・学科に進まないと取れない資格もあります。サラリーマンという職業はないともベネッセの田阪さんは言っていました。会社員といってもいろいろな職種があるので、後で慌てないためにも、今からじっくり進路について考えておく必要があります。**冬休み後には志望分野宣言を書いて提出**してもらいます。冬休み中にいろいろな資料やインターネット等で職業や興味のある学問について調べたり、親と話し合ったりしてほしいと思います。やはり、**進学目標を早期にしかもはっきりと持った生徒は、受験に成功**しているようです。また、大学入試は全国一学区。夢を実現する大学は道外にあるかもしれないので、視野を広く、自分の進路を考えてみましょう。後でもちろん変更することもあると思いますが、今の目標をしっかり見極めることが大切です。やる気が変わってきます。